



T. Henry Moray

12

## トーマス ヘンリー モレイ Thomas Henry Moray

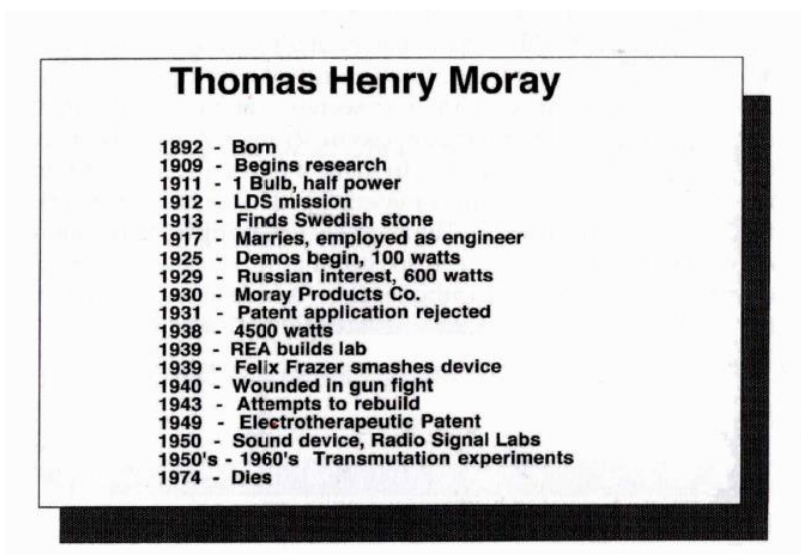
1892 - 生まれる

1909 - 研究が始まる

1911 - 1 個の真空管 完成時の半分の電力 ハーフパワー

1912 - LDS 特殊任務 LDS mission

1913年スウェーデンの石を見つける  
1917ー結婚する エンジニアとして雇用される  
1925年 公開実験が始まる 100ワット  
1929ーロシアの関心, 600ワット  
1930 モレー製造会社  
1931 特許出願が認められる  
1938 4500ワット  
1939ーREAは、研究室を建設する  
1939ーフェリクス・フレイザーは、装置を壊す  
1940ー密接した銃で負傷する  
1943 作り直そうとした  
1949ー電子治療のための特許  
1950ーサウンド装置 ラジオ信号研究所  
1950年代ー1960s 分子変換実験 Transmutation experiments  
1974 ー死ぬ



## 9

### モレーの経歴。

モレー物語は、悲劇である。

技術的な成功の業績の後に、彼のビジネスの破壊と 腐敗した政府からの脅威と暗殺未遂が続いた。

彼は、保護のために弾丸に耐えるガラスを自動車に装備した。

彼は、研究室への急襲の時の、撃ち合いで負傷した。

Rural Electrification Agency 地方電化局は、彼がロシアへ引っ越すのを薦めた

(議会の調査で REA に共産主義者を潜入させたことが後で分かった。)

1939 年に、モレーと密接に働いた REA, からの調査者は、ハンマーをとって、費用をかけて巧みに作られた機械の真空管を壊した。

モレーは、後でもっと小さな装置作ろうとしたが、彼の検波器はすべて破壊されていた。

彼の生命と家族に対する脅威のため、

モレーはエネルギー・マシンを作り直さないほうを選んだが、その代わりに彼の研究を彼のプラズマ・チューブの中で起こったあり得ない原素の変化に集中した：

## **Project X**

**Glenn Foster, 1976**

**\$600,000 - Hanscom Labs, Cambridge, Mass.**

**\$280,000 - Eyring Research Institute  
Cosray Research Institute**

**24 Oscillator tubes built**

**Swedish stone - Diatomaceous earth and quartz**

**Diamond press pellets with radium doping: EMP accident**

**J.E. Moray, E.E. Dahl Assoc, US Air Force Systems Command,  
#F42600-75-2212, Final Report, April 15, 1977.**

10.

## プロジェクト x

1974年にT・H.モレーはなくなった、しかし、研究は続けられた。

彼の息子、ジョン・モレーは、装置のチューブを作り直すという空軍との契約によって資金を助成された。

グレン・フォスター（最近死去した）は、1970年代中頃にいくつかの通常ではあり得ないエネルギープロジェクトに資金を供給するよう手配しその中のリチウム電池は少し成功した。(e.9.the)

フォスターは、プロジェクト x に関して、分析法でわずかに放射性をふくむことを示しダイヤモンド・プレスにおいて最大の圧力を受けた不純物の含まれた珪藻土から成るスウェーデンの石」であることを示した。

電磁パルス（EMP）は、遮断器を吹き飛ばし、通りの全域にある電線の変圧器に損害を与えた（Perreault, 1999）

真空管発振器はプロジェクトで20本以上構築されたが、エネルギー発電システムはもう一度造られることはなかった。

プロジェクトについて、話し合いが続いたがそれは決してされなかった。

今日、カナダのモレー家に長年の研究と若干の器材のメモが、保存されている。

11.

## Big Mysteries

1. Excess Energy
2. Cold Current
3. Sound Device
4. Transmutation

大きなミステリー。

モレーの研究に関連した4つの大きなミステリーが、ある：

1)

装置を駆動するエネルギー源は、何か？

2)

細いワイヤーは、ガラスを透過する「寒流」をどのように、伝導することができるのか？

3)

装置は数マイル離れて会話をどのように、通常の通り拾うことができるのか？

4)

原子変化は、低いエネルギーでどのように、起こるのか？

これらの例外の全ては、モレーが彼の本で強調したテーマである押し寄せるか振動するプラズマのイオンに集中するようである。

## Significant Inventors

**Paul Brown:**  
Nuclear Battery

**Paulo and Alexandra Correa :**  
Pulsed Anomalous Glow Discharge Tube

**Edwin Gray:**  
Electrical Conversion Switching Tube

**Ken Shoulders:**  
High Density Charge Clusters

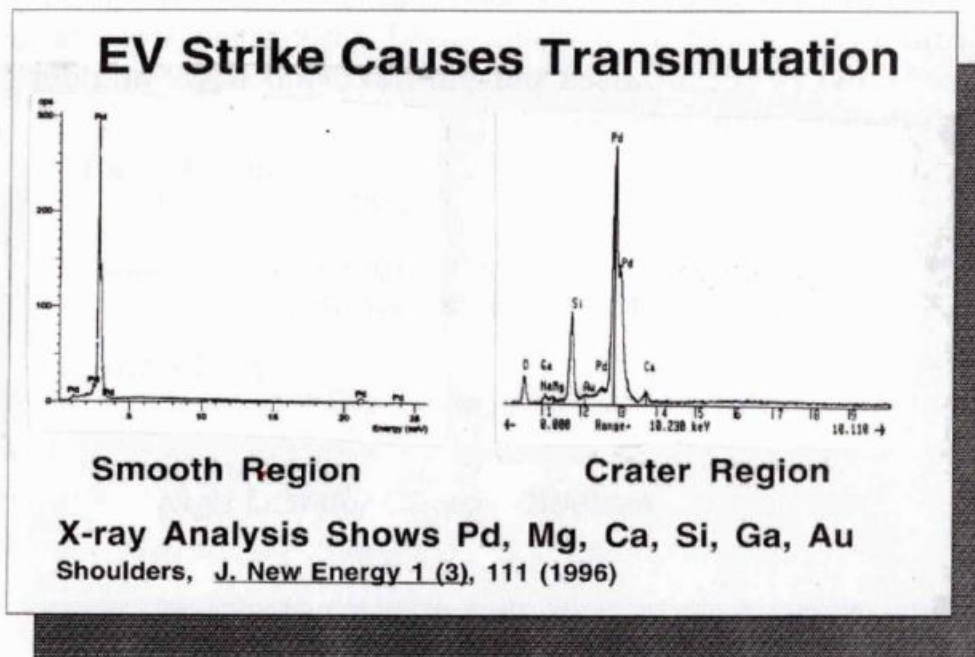
## 12.

### 重要な発明者。

モレーの発見を説明し支えることとなる、関連したテクノロジーを開発したように見える 4 人の重要な発明者の実験的な研究と特許を調べる。

これらは、原子力電池を作ったポール・ブラウン、パウロとアレクサンドラ・コリアの輝くパルスプラズマ放出管、エドウィン・グレイ Edwin Gray's のパルスプラズマ放出管、とケンショルダー Ken Shoulder の高密度チャージ集塵機である。





## EV 電撃の原因による原子変換

滑らかな領域

クレーター領域

X線分析は、Pd、Mg、Ca、Si、Ga、Auを示す

J ショルダー (ニューエネルギー1(3)) 111 (1996)

## 13. 電子直撃 $E_V$ で変換する Transmutation from Ev strike

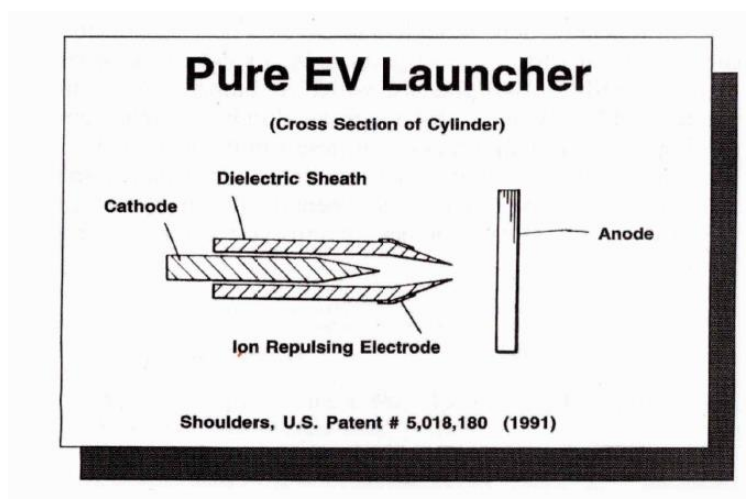
ケン・ショルダーShoulders (1991, 1996) は、きわめてシンプルに原子変換を明らかにすることを証明した。

ケン・ショルダーは、主に彼が電子的バリディウム *electrum validum* ( $E_V$ ) という名前をつけた両極性の電荷の集塵機のように見える放射器からコヒーレントなプラズマの形で出

す方法を発見した。

電子的に打撃したクレーター地域を走査型電子顕微鏡（SEM）で分析することによって示されたように、アルミニウム・プレートの上への高密度のチャージ・クラスターからの一回の打撃でアルミニウム核の変換に終わることがありえた

さらに、結果として生じた変えられた同位元素は、通常では存在しないもので、自然ではめったに見つからないものだった。



## 純粋な電磁 EV 放出器 Pure EV Launcher

(シリンダーの横断面) 誘電外筒 Dielectric Sheath

陰極

陽極

電極から放出されるイオン

ショルダー、米国パテント # 5,018,180 (1991)



# 14

## 電撃放射装置 EV ラウンチャー EV launcher.

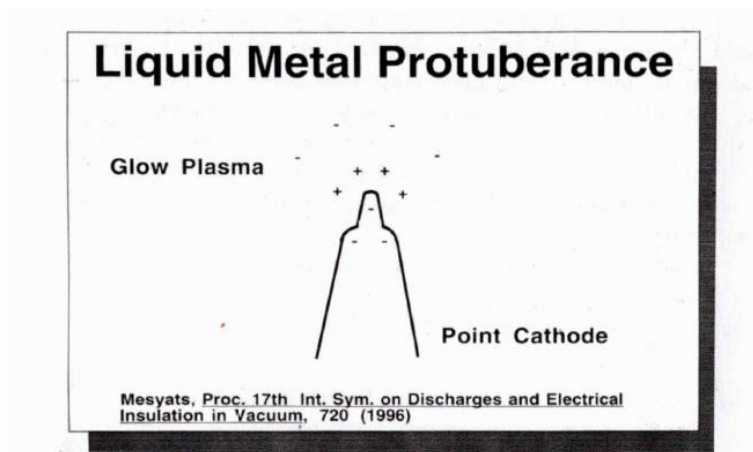
電荷をもつクラスター(群)は、充電しやすい金属チップの先端の電極から、すぐに放出される。

これらの大きさは一般的におよそ1マイクロンで、およそ1011の正味の電子荷電を示し、何千ものイオンを運ぶことができる。

これらは、Shoulders が零点エネルギーから来ることを示唆する異常に過大なエネルギーを示す。

彼はもっと大きなバージョンを製作したが、(センチメートル・サイズ)しかし EMP 爆発が起こり伝導体をたたくときに電子機器に損害を与え、研究するとき危険にした。

特許は、明確に充電・物質をつくる方法を説明して、科学界にすぐに反復可能なエネルギー的な例外を本当に提供した。



### Liquid Metal Protuberance

荷電しやすい金属突出部

輝くプラズマー

++

++

電極の先端 Point Cathode

Mesyats, Proc. 17th Int. Sym. on Discharges and Electrical Insulation in Vacuum, 720

(1996) 40

メーシャツ Mesyats, Proc. 真空での放電と電氣的優位性 17 回国際シンポジウム (真空での放電と電氣的絶縁 Electrical Insulation の会報) 720 (1996)

# 15

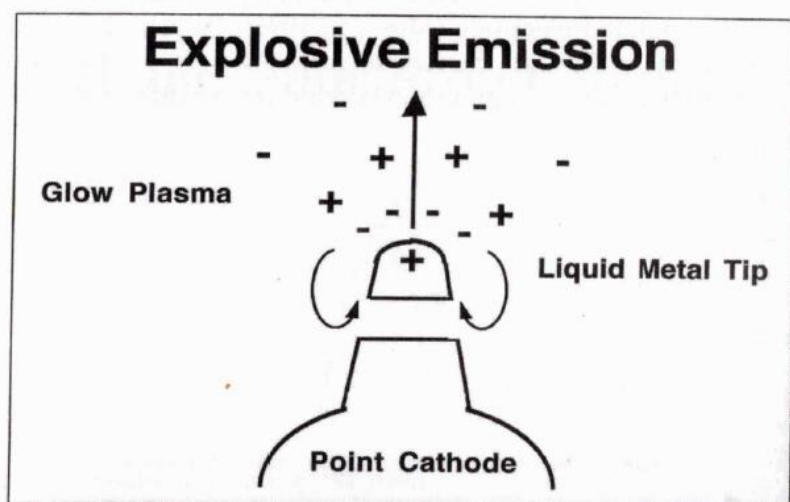
荷電しやすい金属突出部。 Liquid metal protuberance.

電荷・クラスター(群)は、完全に左右対称の境界条件で生じる。

放出の直前に、微細な荷電化しやすい金属軸は、とがった電極の端から迫り出す (メーシャツ、1996)

分極化したコロナは、先端の方へイオンを引きつけて、軸をとり囲む。

この状態は、完全に左右対称の境界条件を示すことになる。



爆発的な発射

輝くプラズマ

電荷しやすい金属チップ

電極のポイント

# 16.

Explosive emission.

## 爆発的な発光。

電荷しやすい金属軸の先端は、周囲のコロナのイオンに突然の圧縮過程をつくることから爆発する。

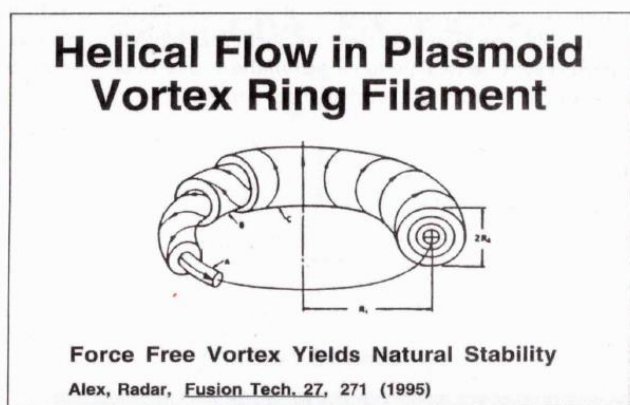
我々は、そのような出来事がインパルスに関与するイオンとのコヒーレントな ZPE 連結を誘導することができたとする提案を支持するために、類似したイオン圧縮例を調べる。

電荷しやすい金属チップから幾何学的に完全な対称形の、渦リング・フィラメントを形成するように、プラズマを導く。

J\_

42

43



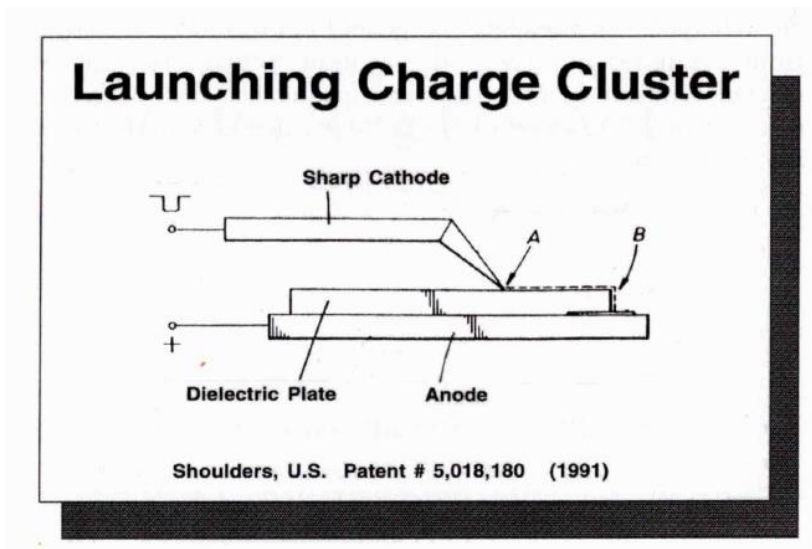
17.

## ボルテックスリング・モデル

チャージ・クラスター(電荷群)は球電のミニチュア形のように見える、そしてそれは、多くの調査者がボルテックスリング・電荷循環を通して安定した増加性を提示する。

このような幾何学は、根底にあるエネルギー的な真空変動から生じるチャージ(電荷)と電子対生成をモデル化するための原型なのかもしれない。

一般的にこうしたチャージ・クラスターは放出過程で起こる、そして、これらの過大なエネルギーはモレーの管に起こっているプラズマ活性にたぶん関係している。



18.

18.

## 点接触形発射電極

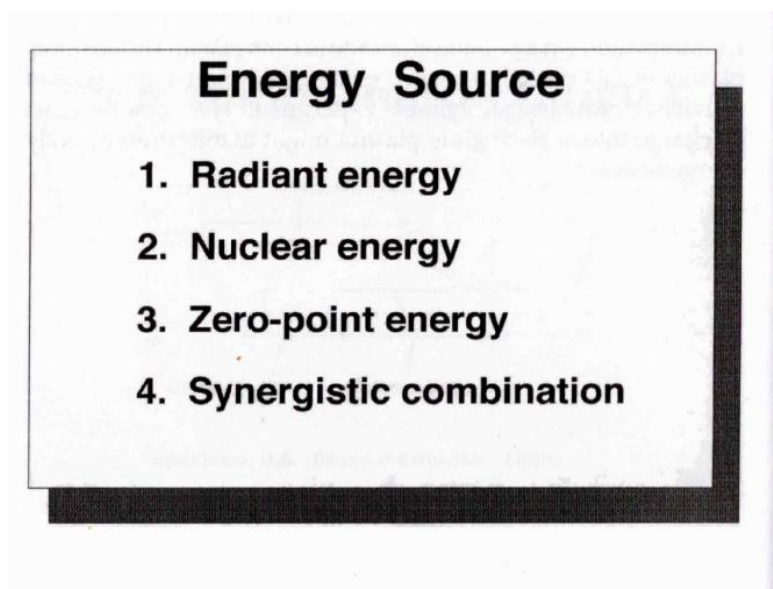
Point contact EV launcher.

誘電表面に触れている点接触型電極は、表面の上へチャージ・クラスター(電荷群)を広めることができる。

先端のあたりのコロナは、EV を、爆発的な発光に導く。

モレーは彼の鉍石検波器でとがった電極を利用して表面の輝くプラズマと接触した。そし

て、それは低い誘導電圧でこの種の活動を誘導することができた。  
点接触型電極の表面の輝くプラズマの放出実験は、特異なエネルギー的な過程を明らかに  
するかもしれない。



## 19.

# エネルギーソースの問題

発明を説明するために、研究者は3つのプライマリーエネルギー源を仮定した。

モレーは、スペースに広がっている放射エネルギー（エーテルの波動）を取り出していると思っていた。

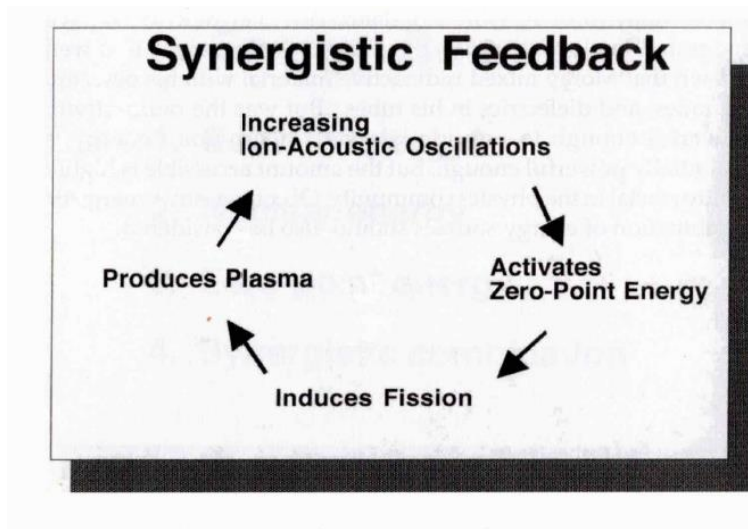
多く（ブラウン、1987、モアランド、1997、Pereault、1999）は、モレーが彼の真空管で彼の検波器、陰極と誘電体を放射性物質と混ぜ合わせたことはよく知られていて、放射性エネルギーが主要な源であることを思っていた。

しかし、この放射能は、キロワットを提供するほど十分強力だったか？

零ポイントエネルギーは潜在的に十分に強力である、しかし、アクセスできる量は物理学コミュニティで非常に論争的である。

Of course, any synergistic combination of energy sources should also be considered.

もちろん、エネルギー源のどんな相乗作用の組合せでも、考慮されなければならない。



## 20.

### フィードバックの相乗効果 Synergistic feedback.

双方向エネルギー・フィードバックの例が、例示される：

イオン音響のプラズマ振動は零点エネルギーをコヒーレントに起動させるかもしれない。そして、それはより多くの分裂を誘発することができる。そして、それはより多くのプラズマを生産することができる。そして、それはイオン活性を増やすことでプロセスを繰り返す。零点エネルギーとのコヒーレントな連結は、システムの中で相乗作用し、エネルギー相互作用の新しい可能性を開く。